

このコーナーは、学生が県内企業の経営者を訪問し、企業の経営方針や求めている人材等について直接聞き取ることで、学生と企業の相互理解を促進し、雇用のミスマッチ等を解消することを目的としています。

第1回目となる今回は、山梨英和大学人間文化学部3年生 木曾川加奈さんが、長谷川醸造株式会社代表取締役 長谷川正一郎氏にお話をうかがいました。



学生

山梨英和大学  
人間文化学部

3年 木曾川 加奈さん

## 仕事を好きになるには 続けること

経営者

長谷川醸造株式会社  
代表取締役

長谷川 正一郎氏



### ▶ 学生

はじめに、会社の概要についてお聞かせ下さい。

### ▶ 経営者

当社は1906年に創業し、当初は味噌や醤油などの醸造業を行っていました。50年ほど前からスーパーの台頭により、味噌や醤油が特売で安く売られるようになったため、山梨県が日本一の生産量を誇る小梅を漬物として加工するようになり、現在では売上の90%を小梅が占めています。

また、新商品開発にも積極的に取り組んでおり「完熟梅ジャム」「青梅ジャム」などを作っています。ジャムを作るには酸味の強い果物の方が向いており、梅はジャムにするには最適な食材です。ただ、この梅ジャムはパンよりも、バターや生クリームなどに合うため、スーパーなどには卸さず大手のケーキ屋などに卸したいと考えています。



山梨は全国でも有数の小梅の産地で、甲州小梅の名称で有名です。甲州小梅は、小梅の中で一番種が小さく、果肉の厚い品種で、当社では山梨特産の完熟した甲州小梅100%使っています。

### ▶ 学生

従業員を採用する上で重視すること、従業員に望むことは何でしょうか?

### ▶ 経営者

当社では採用において私が全員を面接しますが、今まで何をやってきたのか、どのような役割・ポジションで取

り組んだのかを重視します。人のために行動してきた人を採用したいと考えます。従業員と一緒に働く仲間ですので、共通言語を持てるかが重要です。人の話を聞くことができ、思っていることを話すことができ、理解し行動できること、また正義感を持っていることが大事です。これからはコミュニケーション能力や人間力が高い人が選ばれると思います。当社は人が辞めない会社であり、従業員を安易に解雇することは考えていません。人を育てることが経営者の使命と考えており、基本的に解雇をしたことがなく、ほとんどの従業員が定年まで勤め上げています。

### ▶ 学生

近年、新入社員の離職率が高く、企業との雇用のミスマッチに原因の一旦があるとされていますが?

### ▶ 経営者

離職率が高いのは、単に仕事が合わないから続かないという事では無いと思います。例えば、戦後などは自分で仕事を探すのではなく、実家の跡を継ぐ、親に行けと言われた会社に就職するなど自分の意見がありませんでした。その中で一生の仕事として勤め上げる人が多くいます。自分に合う仕事に出会うのは難しいと思います。それよりも会社と与えられた仕事を好きになる努力ができるかだと思います。辞めない覚悟を持って3年間勤める中で嫌なことや良いことを経験することにより、仕事のよろこびがわかり、好きになれば工夫をし、技術が上がるといふ事だと思っています。

大田区の町工場の技術者も同様だと思うのです。日本一の技術、世界一の技術を持った職人がごろごろいます。

### ▶ 学生

御社の描く将来像は?

### ▶ 経営者

学生が企業を選ぶ上で、その会社に経営理念があるかが大事です。当社の経営理念は「おいしくて安全で安心な食品の提供を通して地域社会に貢献する」です。原料の小梅を日本で一番高く買う会社を目指しています。また、南アルプス市には果樹などたくさんの農産物がありますので、将来的にはそれを加工することにより地元が潤うような仕事をしたいと思います。しょっぱくて酸っぱい日本特有の味である梅干しを守り、当社の梅で日本人を健康にしたいと思います。また、社員が「長谷川醸造に勤めている」と胸を張って言える、またそれがステイタスになるような会社を目指します。

### 取材を終えて…

今回の訪問を通して、就職先を選ぶ基準が変わりました。就職活動を始めて、自分に合った企業を選ぶようにと言われていました。しかし、自分に合った仕事など無く、自分の努力で仕事を好きにならなくてはいいけません。自分に合った企業を選ぶかではなく、どれだけ好きになれるような企業かで就職先を探そうと考えるようになりました。また、理念がちゃんとある会社に就職したいと思いました。

